

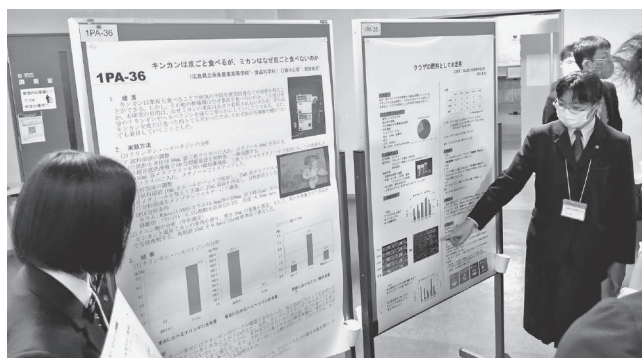
Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより

中国四国支部発

2022年 化学教育研究発表会

中国四国支部では、理科・化学教育に関する研究発表や教育実践報告、高校生や高専生による科学探究発表を行う場として、化学教育研究発表会を日本化学会中国四国支部大会の化学教育セッションとの併催で毎年開催しています。

2022年度は、11月12～13日に広島大学東広島キャンパスにおいて対面式で行われました。大会初日の12日は、中国四国地区の高校生・高専生による8件のポスター発表が行われ、自身の科学探究を存分に発表してくれました。コロナ禍対応の中でも非常に活気ある質疑が交わされてお



り、高校生・高専生の研究意欲の高さを強く感じました。

大会2日目の13日は、12件の口頭発表が行われました。大学研究者ならびに大学院生からの研究発表、現職教員からの教育実践報告の他、高校生の科学探究発表、企業研究者からの実験教材提案など、化学教育に関する幅広い発表と討議がなされました。聴衆には化学教育に興味のある中高生や教員を目指す大学生も参加し、人的交流の場面も垣間見えて、対面式ならではの意義深い会となりました。

高校生・高専生のポスター・口頭発表の中から、優秀な発表と認められた4件に対して優秀発表賞を授与しました。受賞された皆様、おめでとうございます。

次回は、山口大学常盤キャンパスで2023年11月に開催される予定です。新たな研究成果とともに山口で皆様とお会いできますことを願っております。

(網本貴一 広島大学大学院人間社会科学研究科・准教授)

東海支部発

第31回東海地区高等学校化学研究発表交流会

日本化学会東海支部ならびに同化学教育協議会が主催する「第31回東海地区高等学校化学研究発表交流会」が、令和4年11月3日(木・祝日)に名古屋工業大学4号館ホールにおいて開催されました。昨年ならび一昨年はコロナ禍の厳しい状況を鑑みてweb上で実施したため、久しぶりの対面開催となりました。愛知・三重・岐阜・静岡・長野各県および名古屋市の教育委員会からの後援と東亜合成株式会社より協賛をいただき、東海4県から8校と関東支部交換交流校1校のあわせて9校の発表が行われました。参加者は高校生、高校教員、大学教員など85名でした。日本化学会東海支部の海老原昌弘支部長の開会挨拶に続いて、研究成果が発表15分、質疑10分の持ち時間で発表されました。質疑では、他校の生徒からの積極的な質問とそれに対する応答が行われ、そのうち大学教員からの研究発表内容に関する講評が行われました。発表終了後の審査によって、優秀賞2校、奨励賞6校が選ばれ、表彰状と副賞が各校に支部長から贈られました。優秀賞は、「メチ

レンブルーから得られた赤色色素の構造決定と化学発光」(滝高校)と「疑似濃淡電池の研究」(静岡県立清水東高校)の2件でした。また、多くの優れた質疑並びに応答を行った生徒3名には、討論賞が贈られました。最後に、日本化学会東海支部化学教育協議会の中野博文委員長から、「化学への関心を持ち続けてほしい」と熱い思いを込めた閉会挨拶で発表交流会は無事終了しました。東海支部化学教育協議会では、これからの時代を担う高校生の化学的好奇心とチャレンジ精神を応援していくことで、彼ら・彼女らの成長を支援していきます。次回は、今回同様に発表校を一般募集し、2023年秋に岐阜大学で開催する予定です。今後とも私どもの活動に一層のご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

(平下恒久 名古屋工業大学大学院工学専攻 生命・応用化学系プログラム准教授)



会場の様子

クイズショー小委員会発

はまぎん こども宇宙科学館
なぜナニ化学クイズショー

令和4年11月3日の文化の日に、『化学の日 なぜナニ化学クイズショー』を横浜市磯子区にある「はまぎん こども宇宙科学館」にて開催いたしました。この施設ではコロナ禍においてもできる限り子どもたちにリアルな科学体験をしてもらおう、との考えから感染対策を積極的に行うことで、早くから対面式の各種サイエンスショーなどのイベントを実施しています。今回の化学クイズショーは5階キャプテンシアターにて実施し、午前と午後に約45分の講演を2回行いました(写真)。参加者は延べ約60人であり、多くの子どもたちに参加いただきました。

クイズショーは日本化学会 柏恭子委員の司会のもと、①真空容器を用いた空気の圧力の確認(宮本一弘先生/開成中学校・高等学校)、②うがい薬の入った水にスポーツドリンクを入れると?(鈴木孝雄先生/都立つばさ総合高等学校)、③ドライアイス電子レンジで加熱してみよう!(内藤卓哉委員/クイズショー小委員会)の3演題を実施しました。それぞれの演題の前に子どもたちに3択問

題を出題し、問題に解答してもらった後、実際に実験を行いながら正解の確認をしました。真空容器の実験では穴をあけて漏れ出たコーヒーが缶の中に戻るところ、うがい薬の実験では瞬時に色が消える反応、電子レンジの実験では加熱してもドライアイスが残っているところ、などで大きな歓声が上がりました。子どもたちが化学実験を通して楽しんでくれていることがわかりました。また、クイズショー終了後は化学の日バッチを記念に持ち帰っていただくとともに、自宅でも化学実験に取り組んでくれればと期待し、化学だいきクラブニュースレターを配布いたしました。まだまだ大人数が集まるクイズショーを実施できる施設は少ないですが、クイズショー小委員会では今後も積極的にいろいろな場所で子どもたちに化学実験の楽しさを伝えていこうと考えています。

ステージ上での演示風景
(5階キャプテンシアター)

(遠山岳史 日本大学理工学部教授)